

平成30年度第3回総合教育会議 会 議 録

1 開会、閉会等に関する事項

平成31年2月20日（水）

- ・開始時刻 午後3時00分
- ・閉会時刻 午後4時10分
- ・会議場所 役場2階203会議室

2 出席者の氏名等（9名）

所属・職名	氏名
金ヶ崎町長	高橋 由一
教育長	千葉 祐悦
教育長職務代理者	石母田 明
教育委員	佐藤 裕子
教育委員	細目 明子
教育委員	高橋 幸子
中央生涯教育センター所長	佐藤 政義
教育次長	佐々木 健一
教育次長補佐	川井 理

2 町長あいさつ

町長部局と教育委員会が一貫性を持ちながらお互いをよく理解し、情報交換をすることで課題への将来展望を持った対応をすることが基本だと考えている。

本日は平成31年度の教育行政の方針を定めるにあたり、反省、課題を反映して諸課題の整理をしていきたい。

3 協 議

（1）平成31年度金ヶ崎町の教育行政について

千葉教育長から資料に基づき説明を行った。

金ヶ崎町の教育において、大綱に基づいた事業を行っています。個々に見れば諸課題・問題は発生していますが、総じて教育委員会が目標としている諸政策については一定の成果を挙げています。今後の社会情勢の変化による変化等による課題についても教育委員会が一丸となって解決していきたい。

配布した資料は総合教育会議の中で金ヶ崎町教育の大綱として定めたものです。

平成 28 年度に策定したもので、第 10 次総合発展計画の教育分野における計画の位置づけもされています。平成 31 年度は 3 年間の成果を振り返りながら、新たな視点に立った教育行政を進める時期となっています。

平成 31 年度の教育行政を進めるにあたり、大きく幼児教育・学校教育については 6 点、社会教育・歴史については 4 点の課題をあげています。解決のためには町長部局と教育委員の協力、連携が必要です。

振興計画の概要は 4 つの視点における目標を掲げています。

「学校教育」について。子供たちを取り巻く環境が大きく変わっています。情報化社会に対応する力を育てる事業展開を考えています。幼保は「小 1 プロブレム」解消のための項目が重要と捉えています。平成 31 年度は幼保小の接続に関するカリキュラムを定める必要があります。平成 29 年度にコミュニティスクールを立ち上げ、県内から注目を集めています。これまで手探りで進めてきたが、良い成果が上がっており、県主催の会議で事例発表なども行っています。さらに内容を充実させて進めていきたい。

直近 3 年間の学力を比較すると、少しずつではあるが成果が見られます。現在隣室で学力向上対策委員会が行われていますが、これまで同様に責任をもって進めていきたい。学校指導要領が変わるために指導内容の改定も進めています。

「特別支援教育」について。年々支援を必要とする人数が増えています。学ぶ環境、学ぶ権利を与えたい。教員への支援についても県に要望を出しています。

「生涯教育」について。平成 31 年度は生涯教育 40 周年を迎えます。変化を吸い上げ、新たな生涯教育を進めるための大事な年になります。

「文化財」について。本町の文化財の保存・活用のために適切な基本計画を作り、それに基づいて進める必要があります。先日保存計画案が承認された鳥海柵跡をはじめ、旧軍馬補充部六原支部官舎等の文化財の保存活用に係る諸計画をしていきたい。

佐々木教育次長および中央生涯教育センター所長より補足説明を行った。

【意見交換】

高橋町長 学力向上のため、岩手県大槌で小中一体校舎がスタートしている。金ケ崎町では中学校1校、小学校5校の連携は非常に良いと考える。幼稚園、保育園と小学校との連携をしっかりとし、ギャップのないように進めたい。

英語については進んでいるが、それ以外の部分で具体的に何か始めてほしい。中1のギャップはなくなっているように聞こえている。小学校と中学校における数学・理科の学習、理解の仕方の切り替えができればよい。探求心の強い子供になる起点になるのではないかと期待している。

学力向上の程度や難点を挙げてほしい。岩手県の教育水準は高くなく、医大に入学する生徒が少ない。県に働きかけても実現まで時間がかかる。地域枠を設けても埋まらず、学力が足りない。医師になるためには小学校からの学力が必要。幼稚園から繋がる学力向上に係るシステムの前進をお願いしたい。

金ケ崎町が進めてきたコミュニティスクールを地域にさらに根差させ、いじめや暴力、教師の多忙化の解消に繋げてほしい。地域は様々なフォーラムや検討委員会を設けているが、地域教育や学校教育との連携は話題に挙がっていない。地域課題として取り組んでほしい。コミュニティスクールも「たくましいかねがさきっ子」のように活動を発表する機会を設けて情報発信してほしい。大きないじめや暴力といった社会的問題になるようなものが金ケ崎では起こっていないのは、いい方向に進んでいるためだと思う。

子ども育成条例について。条例にとどまらず6年生の子ほめ事業の成果は大きいと感じる。広く知られていないのが惜しい。

郷土愛について。歴史やふるさと教育について、視点を広く、煮詰めて学習させたい。歴史館等の施設も活用し見聞を広めてほしい。

プログラミング教育について。準備、スケジュールの実行をしっかりしてほしい。文科省や経済産業省の人たちの話を聞くと、グローバル化に伴い、英語、最先端の技術を用いたものづくりができる子供を作らなければならない。また、学校教育の中で学ぶことで自然にモノ作りの考え方を身に着くという。中学校の頃に職業選択ができなくとも職業意識を持たせることで子供の将来を自分で選択する能力を持ってほしい。子供たちの動機付けは中学校が最適だと思うのでそういった対応もしてほしい。考える力、思いうる力を与えるだけで違うのではないか。

スマホについて。生活環境の変化により家庭だけでなく行政、学校でも扱い・リテラシーについて課題として話し合う必要があると考える。

生涯教育 40 周年について。記念式典の日程、文科省からの来賓が決定した。

スポーツ振興について。一人一スポーツを進めてきたが、反省と課題点の洗い出しが十分ではないので、対応を考えたい。全町民がスポーツ振興の一員だということを広めたい。厚労省では健康寿命を延ばすという点で食育とともに体力増進、そして生きがいについて言及した。金ケ崎の健康寿命を延ばすため、これらの点に留意して計画を出す中にスポーツ振興がある。

高齢化社会について。金と生きがいが大きな問題。100 年生きることを想定した財産設計が大事。年金の使い道や健康管理の問題について、今までよりも広い視点で定年後のことを考えなければならない。定年後の生活についてのセミナーは公務員向けには積極的に行われている。その中で年金について詳しく語られるが、一般の人向けにはあまり開催されていない。高齢化の中でお金、健康、生きがいの問題について手掛ける必要がある。以前 65 歳人生大学を提案したことがある。誰もが必ず病気や金、家族の問題に悩み、苦しむ。それらについての情報を得、勉強する機会がないため。

教育環境に対する財政投入について。余力はないが必要な物は整える。人口 1 万 6,000 人以下の自治体では急速に小学校、幼稚園の統廃合が行われている。県内の同じ規模の自治体も統廃合が進んでいる。中央センターのように地域づくりの一環としこの問題を話し合う機関が必要。

待機児童 0 について。現在は直接教育委員会に関連はないが、いずれ関わってくる。管理関係以外もお願いしたい。地域とのふれあい、親とのふれあいなど幅広い取り組みを明確に出してほしい。

細目委員 高齢者教育について。財政的な知恵をつける必要について改めて考えようと思った。参加者も多いと思う、生涯教育の部分でぜひ力を入れてほしい。

生涯スポーツ関連で、合宿誘致で昨年からスケート場で大学生と町民の交流会を行った。昨年よりも参加者が増え、子供たちからの評判がとても良かった。スケート場が町内にあるのは、他市町村より優位なことであり、多様なスポーツを子供たちに選ばせる権利の拡大を図ってほしい。

高橋町長 アイスホッケーは金ケ崎の多くの子供が奥州市と合同チームとして活躍している。お金ではなく試合や指導の機会の支援もいいと考えている。活

動を充実させ、次につながる支援を課題として考えたい。

細目委員 以前、福岡中学校の野球部が冬季間、足腰のトレーニングとしてスケート場を利用していた。他スポーツの冬期間の練習場としても利用できるのではないのでしょうか。

佐藤委員 中学校の道徳の時間が多くなるとのこと。内容については分からないが、自分の進む道を考える内容や、社会の仕組みを教える時間も大事だと思います。

運動会があるのは日本だけだと以前海外に住む人から聞いたことがあります。規律正しいのは良いことだが、自分たちを表現・開発することの歯止めになってしまっている面もあるのではないのでしょうか。子供たちは常に行事に追われているので、子供たちが余裕をもって自分について考える時間が欲しいのでは、と感じています。

石母田委員 議会後に出る資料があるのなら、具体的な目標数値があると評価について考えやすい。表に出ていない数値があるのなら我々も見ることが欲しい。

千葉教育長 確かに、5か年計画の資料には数値が入っているが、単年毎の資料は作っていない。感覚的な評価ではなく、数値化の評価も確かに必要。来年度より取組みたい。

石母田委員 道徳活動は無理でも、体力向上や健康維持については数値化できると思います。

佐藤委員 数値にすると確かに分かりやすい。

千葉教育長 教育行政評価は行っていますが、改善の余地はあると思います。

高橋委員 長年幼児教育に携わってきました。時代や地域のニーズに合わせた幼児教育がなされてきました。少子化からの幼稚園統合も経験した。ハード面でも時代に合わせた幼児教育の環境提供に感謝しています。

最近では特別支援が必要な子供も幼稚園に入りたいという親の希望から、各園一人～三人度の支援が必要な園児がいる。教育委員会の計らいで支援員も配備され、多方面から助力してもらっているが、学術的な支援だけでなく個別に対応できる教員を町として採用し、各園を回ってほしい。

高橋町長 幼児期に的確に対応できれば、小学校に入学時に落ち着く可能性が高い、という話を聞いた。子育て支援課や保健福祉センターなど多方面と連携し、課題として取り組みたい。

高橋町長 中学校のクラブ活動と中学校教諭の働き方改革について。スポーツ少年団と学校のクラブ活動、先生の関係の整理をしたい。クラブ活動の編成自体についても、ゲームが成立する人数がそろわない部活動もあり、学校だ

けでなく町としての問題でもある。指導者との協議の場を持ちたい。

全国だけでなく海外でも、スポーツ分野で活躍する岩手県民が増えている。ラグビーワールドカップより、地域の盛り上がりや海外の人との交流が期待できる。そのためには環境整備や受け入れ態勢を整える必要がある。金ヶ崎町だけでなく、岩手県全体で選手を支え、育成していく必要がある。

提案や課題を整理して、今後も協議していきたい。

他にご意見等ございますか。無ければ協議を終了いたします。

一 同 なし。

[その他]

なし

会議終了 午後4時10分